江戸

時代から続

の農作物は風で倒され栽 地上で収穫する果菜など

里芋産地

組みを進めている。な かでも、地域農業の担い

> ってきている。 する期待は非常に高ま

TACの活動をレポー

本紙では、そうした

しているが、今回は

は着実に自己改革の取 も終わり、JAグループ

第27回JA全国大会

手に出向くJA担当者

「TAC」の活動に対

## - 12

芋」だ。「文献によれば

の代表的な農産物は「里 Aうまを中心とする地域

里芋がこの地域の中心

江戸時代から里芋は栽培

されており、400年以ある「やまじ風」が吹き、た事態を打開するため

日本三大局地風の一つで 的農産物になったのは、

取扱数量が激減。こうし 販売金額は伸びたものの、 平成15年以降は、JAの か。しかし、県東部・J

とJAうま合田仁営農指 体系が確立されている」 た高い技術水準と、栽培

るからだ。

輪作することでより安定

した品質・収量が得られ

そして水田栽培が可能で

りも収益性が高いこと、 培しづらいこと、水稲よ

導課長。

商系の集荷業者も多く、

古くからの産地なので、

が多いのではないだろう

ミカンを思い浮かべる人

愛媛県というと、まず







JAの直売所でも「伊予美人」は人気商品だ

考えている。

合田課長も「営農指導

さらに指導的な役割を果

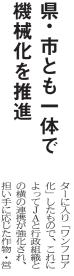
ていくために「TACが

たしていくべきだ」とも

水準を高めそれを維持し

を評価している。そして 設置されたTACの活動 との会話」をするために がとれている」と「農家 りのコミュニケーション

いま以上に規格・品質の



設が完成し、引続き同一

800音//增加、秀品率 に比べて10~当たり収量

る。

種子更新を呼びかけてい

に力を入れている。

械化一貫体系の普及推進

やコロッケ、里芋焼酎、活用した、里芋ギョーザ

のかりんとう「ボリポー

チームえひめ」として

航空機の機内食でも人気かっている。

培方法)を組合わせた機 者と提携し、規格外品を

農業委員会、県の農業指 ストップサービス」を行 おうと市の農業振興課、 これは、「農業版ワン お、農業振興センターは、応が可能となった。(な く、迅速かつ細やかな対 農相談など総合的な情報 提供ができるだけではな 担い手に応じた作物・営 でいる。) って農業振興に取り組ん 敷地内で連携し一体とな

国中央市農業振興セン

年4月に設置された「四 を支えたものとして、19

そうしたTACの活動

精鋭が配置された」と合 田課長。その精鋭のT 戻すために、TACには Cたちが中心的となり、 「農家との会話を取り 毎年セル苗を立てて、原 割は、原種圃の設置と種 15%向上だ。 供給する。また、品種特 種圃で種子を増殖し、優 子更新だ。具体的には、 良種子を選別して農家に そのためのTACの役

班と協力し、省力化技術 く取組みを行っている。 最近では、県の農業指導 畦をマルチで被覆する栽 芋の全生育期間を通じて 重

## 愛媛の 伊予美人」へ 小芋」か

く必要があるからだ。 農家手取りで優位性を築 のブランドである「伊予 負けない販売力を持ち、 要だ。JAが商系業者に 販売面での取組みも重 を5年間続けている。こ どの嗜好調査アンケー き」の試食宣伝や食味な とくくりの販売から うした取組みで従来の 郷土料理である「いもた 「愛媛の小芋」というひ 伊 指導的

消費者にJAグルー

連携して、広島や京都な 購買意欲を引き立てるた めに、JA全農えひめと 美人」の認知度を高め、 とに大鍋を持ち込んで、 いる。 の切り替えをはかって 予美人」 さらに、 へ消費者意識 市場流通だけ 県内の加工業 でそれぞれ月2回ほど、設。3カ所のJA産直市

26年12月に四国中央市の 農林関係全部署が入る施 目標は、既存の「女早生」 換に取り組んだ。JAの させるため、5年ごとの 性を維持し、品質を安定

の所得増大につなげてい ことで、省力栽培による 貫体系の普及推進を図る 規模拡大をはかり、農家 生産面では、機械化一 栽培面積の維持につなげ 械化は、高齢化で栽培者 も増えてきている。「機 への取組みによって、2 数が減っているなかで、 能とし、大規模な担い手 ~3 診までの作付けを可 ったが、こうした省力化 1戸1診ほどが限界であ 従来の栽培方法では、

だと合田課長。 ていく大きなポイント」 広域選果体制

置されたおかげで、昔通

特産部会長も考えている。交流ができると張り切っ きたいと合田課長も宝利 の広域選果体制への取組 と連携し、「伊予美人」 めとして「伊予美人」の 体制を整え、チームえひ 集荷・選別し、出荷する みを27年度より試験的に ブランド化に取組んでい A間で連携し、 広域にて スタートさせた。県内J また、この11月には四 JAうまでは近隣JA 国中央市で、第2回全国 。 者、流通販売関係者、行 地の生産者及びJA関係 に対し、全国の主要な里芋産 ている。 も全国の里芋生産者との じめとする生産者の方々 り、宝利特産部会長をは TACの皆さんはもとよ が参加する。合田課長や 里芋産地交流会が開催さ 政関係者など約300

専任担当TACを1名新 JAうまでは、産直市 さらにT な役割 相談所を設け、個別に のバックヤードに椅子だ A 産直市会員に対し産直市 が まではTACとはいえな ができなければ、JAう Cは、 担い手と タッグを組 美人」という特産農作物 い」と言い切る。 んで、地域農業の振興に を武器に、JAつまのT

## 動 **2**

現地ルポ JAうま (愛媛県) の産地化・ブランド化 く」体制を整備してT 早くから「農家に出向 産物の里芋「伊予美人」

ACを設置し、特産農

いる愛媛県のJAうま に活動するTACへの期 を取材した。 との信頼関係を築いて 「伊予美人」を武器 種「愛媛農試V2号」の 選抜によって開発した品 く丸い里芋」という意味 ことだ。「愛媛生まれの白

県農林水産試験所が従来 品種「女早生」から系統 「伊予美人」とは、愛媛 特有の"ぬめり"には栄 いる。柔らかく、粘りも えひめが商標登録を取得 で名づけられ、JA全農 強く旨味・味わいがある、 しブランド化に取組んで

待は大きい。

「伊予美人」を牽引する 宝利特産部会長 の8JAが合併して誕生。 別子山を管内とする広域 指の製紙・紙加工業中心額が全国一という全国屈 JAだ。平成8年に東予 の四国中央市と新居浜市 JAうまは、紙の出荷

市が加わり現在の形にな

肉豚などがある。

その後15年にJA川之江 け橋!出向く営農」をス に加えて、水稲、鶏卵、 は、特産の里芋・山の芋 部隊として「農家との架 営農経済担当常務の直轄 った。主な農産物として 同JAは、平成20年に

当初は悩んだり 不安な気持ちも

ローガンに、県内ではも 培方法では労力がかかる 機械化・省力化による規 るなかで、従来からの栽 進み、栽培農家が減少す ついて、農家の高齢化が 基幹品目である里芋に ために、規模拡大が難し を上げていくためには、 産地を維持し、農家所得 い状況になってきていた。



積を開始した。 とがあげられる。

JA全農えひめが商標登録した「伊予美人」

ならず、農家に出向く回 会などを実施しなければ 務などと兼務で栽培講習

JAが強く感じていたこ 極的に強化する必要性を 身」となっていた。その とができずに、「受け 数や時間を十分にとるこ ため、農家との接点を積

トする。

100戸を担当でスター

来られても…」「毎日来

しかし当初は、「今更

ても用はない」と言われ

担い手からなかなか受け

人れられてもらえず、

することで、しだいに担 どの情報資料を作成して ポート」や生産・販売な 全農発行「グリーンレ 出向くなど工夫と努力を という。それでも、 んだり不安な気持ちを抱 い手から受け入れられる いたりしたこともあった

相談できるような機会を ようになっていく。

2 9」などの加工食品が開 人」の認知度向上に一役 る営農指導だ。また、 ターゲットにした出迎え 導ではなく、逆に産直市 つくった。出向く営農指 に出荷に来る生産者を のTACが食育ソムリエ の資格を取得し料理面か

体制を整えている。 併してJAが大きくなっ らのアドバイスも行える たが、早めにTACが設 宝利特産部会長は

農指導員が配置されてい たものの、販売・購買業 の時期は、里芋の優良品 内を5地区に分けて 係者など約500戸。管 区の生産部会代表者・関 手は、認定農業者、 どによる栽培の簡素化・ TACを中心に機械化な を進めていたこともあり 予美人) いくことになる。 省力化を強力に推進して 種「愛媛農試V2号 1 診以上の生産者、各地 TACが設置されたこ TACが訪問する担い への品種転換

店に経済担当窓口が設置 まず、広域合併してJA され、主要な支店には営 A利用が低下しているこ が大型化し、組合員のJ また、18年当時、15支 TACを設置したのは、

要があった。

訪問活動、面談記録の蓄 模拡大を促進していく必